

	世田谷区立砧中学校 校長室だより 令和4年10月31日 第 40 号 校長 大坂 崇		
	教育目標 「豊かな人間性の育成」 ◎ 集団生活における責任感と自主性を養う ◎ 健康な心身の育成と勤労の喜びを培う ◎ 基礎学力の充実を図り深く考える姿勢を育てる		
	社会性の学び 自他の尊重 地域貢献	知的な学び 主体的な学び 学習の定着	心と体の学び 心身の健康

行事後の学級指導

・ ・ ・ 行事後の学級の再スタートのために

行事後の生徒同士の「人間関係」。

人が不愉快と感じる言動や人間関係のすれ違いを生む言動を指導するのが、とても重要！

特に、次の点を意識できると良いと思います。

1 言葉（口）

ポイント：「人権感覚」

⇒「人を傷つけない」意識

①言葉の内容

「死ね」等 → 命を粗末にする言葉

「汚い」「お前の触った物は触りたくない」等

→ 人格を否定する言葉

（「無視」という沈黙を含む）

「何で来たの？」「お前には関係ない」等

→ 複数の解釈ができる言葉

生徒に書かせる「作文」や「感想文」でも

「社会人としての常識を外れる」ものは指導する

（書き直させたり、書き方指導も行う）

②話し方

同じ内容も「話し方」で相手の受け取り方は変わる

③否定の仕方

人からの依頼に、いきなり「できない」「ムリ」

→ 「やる前からなぜできないとわかるのか」

「やる気がない（やらないという意思表示）」

と取られる

→ まずは『試行 or 思考』して・・・

「〇〇ができなかった」

「〇〇日間では、時間が足りない」と回答

「できない」と言う方が、「できる」と言うより難しい

*様々な方法を試して、できる方法があれば「できる」であって、すべての方法を試さないと「できない」と言えない

2 態度・行動（身）

行動や目の動きで人に与える印象は大きく変わる

①横目（アイコンタクト）

アイコンタクト：接触型球技で行われる目と目で行

われる意志疎通（横目が多い）

でも、普段の生活で「横目」を使うことはまれ

→ 使われるのは・・・

良くないことを考え（実行しようとし）ている

悪い意味で他人に「同意を求める」 など

良い場面はまずない！

②無視

話をされていてその人を全く見ない

（関係ない方向や下を見ている、目をつぶる等も）

挨拶しても目をそらす＝その人を認めない意思表示

③嘲笑

人を馬鹿にして笑う（目に出る）

④にらむ

相手を怒り④や威嚇の意思を持って凝視する

→ 相手に「闘争心」または「恐怖心」を持たせる

⑤体の動き

会話中の⑤「貧乏ゆすり」「手の指や筆記具で机を

トントン」「大きなため息」「手組み・腕組み・脚組み」

→ 相手に「早く終わってほしいと思っている」

「イライラしている」と感じさせる



禍は口より出でて身を破る、幸いは心より出でて我を飾る

という意識をもたせる指導を・・・